

しなの鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 初年度・2年度目）の概要

しなの鉄道総合連携計画

○総合連携計画の策定年月日 平成22年 2月18日

○総合連携計画の区域

しなの鉄道(株)しなの鉄道線(軽井沢～篠ノ井間)沿線9市町(長野市、上田市、小諸市、佐久市、千曲市、東御市、軽井沢町、御代田町、坂城町)の区域

○基本的な方針

地域全体の公共交通の維持・安定、さらには効果的かつ効率的で持続可能な公共交通システムを実現するため、沿線地域が一体となって、この地域の公共交通機関の中で基幹的な位置にあるしなの鉄道の経営の安定を図る。

○総合連携計画の目標

平成21年度の輸送人員を基準として、輸送人員の減少に歯止めをかける。

○事業及び実施主体

- ・ しなの鉄道線軽井沢～小諸間の増便・軽井沢駅での新幹線との接続改善
(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
- ・ 企画列車の運行等(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
- ・ 情報提供の高度化(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
- ・ 沿線イベント情報の発信(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)

○その他連携計画の実施に関し必要と認める事項

その他必要と認める事項は特になし。

しなの鉄道活性化協議会

設置年月日:平成21年2月16日

構成員:長野市、上田市、小諸市、佐久市、千曲市、東御市、軽井沢町、御代田町、坂城町、長野県、沿線9市町商工会議所・商工会、しなの鉄道観光協議会、沿線住民代表

■旅客サービスの向上

- ・ 軽井沢～小諸間の増便
- ・ 軽井沢駅での新幹線との接続改善
- ・ 駅舎の改築、ホーム扛上、エレベータの設置等
- ・ 169系車両の更新
- ・ 企画列車の運行、企画切符の発売
- ・ パーク&ライドの推進

など

■駅及び駅周辺

- の活性化
- ・ バザー、コンサート
- ・ 作品展示
- ・ 空きテナントへの
店舗誘致
など

■地域との連携

- ・ 沿線イベント情報の
発信
- ・ 地域イベントとの連携
- ・ 集客施設との連携
- ・ ボランティアによる
駅周辺の環境整備
など

輸送人員
の減少に
歯止めをか
ける

しなの鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 **初年度**・2年度目）の概要

平成22年度事業実施概要

検討の経緯

（開催年月日及び検討された内容を記載して下さい。）

■22年5月：第1回協議会

- ・平成21年度の事業報告と決算
- ・平成22年度に実施する事業の実施計画及び予算について

■22年10月：第2回協議会

- ・軽井沢～小諸間増便事業の中間報告（乗降調査の中間結果、新幹線との接続時間短縮状況等）
- ・利用者アンケート調査結果報告
- ・列車内中吊り広告の実施状況と今後の予定について
- ・沿線自治体広報紙への広報掲載について

■23年2月：第3回協議会（予定）

- ・平成22年度事業全体の実施状況
- ・平成23年度実施事業概要（案）

事業実施状況及び今後の展望

事業名：軽井沢・小諸間列車
増便事業（実証運行）

＜実施主体＞しなの鉄道活性化協議会
・8月：実証運行開始



（22年8月～継続中）

- ・8月1日より軽井沢～小諸間列車の増便実証運行を上り7本、下り6本の合計13本行っている。
 - ・12月4日より、さらに軽井沢駅で下り最終新幹線と接続させた下り小諸行を1本増便実証運行している。
- 継続実施することにより利便性の高いダイヤを定着させ、鉄道利用の促進を図っていく。

- ・増便列車の利用者は他の定期列車からの流動もあるため、新規利用者の開拓を図ることが課題である。
- ・増便による利便性の高まったダイヤについて、更に周知を図っていくことが必要。

- ・利用者アンケートの結果からは概ね利便性の向上が図られたことに賛同する意見が多く、増便事業を継続しつつ利用者増につなげていく。

事業名：企画列車の運行、企画切符の発売

＜実施主体＞しなの鉄道活性化協議会

- ・5月～：いいこの旅フリーきっぷ（家族割引）
- ・8月～：浅間高原フリーきっぷ（軽井沢～小諸間）
- ・9月～：169系列車を湘南色に塗色、企画列車として運行



- ・いいこの旅フリーきっぷは12月26日まで実施し、発売実績は大人1,727枚、小人449枚である。
- ・浅間高原フリーきっぷは1月10日まで実施し、発売実績は大人201枚、小人22枚である。
- ・169系列車を湘南色に塗色変更したものを使用した企画列車は9月以降約10回行っており、今後も予定している。ほぼすべてで申込みが定員を上回る盛況である。

- ・企画列車の運行、企画切符の発売による利用促進は利用者の声からも概ね好評である。

- ・湘南色の企画列車は、単独ではマンネリ化により集客効果は薄れるため、他のイベントとセットにしたもので引き続き実施している。
- ・企画切符に関しても、引き続き要望を踏まえた適切な商品を提供することで、利用者増加につなげていく。

事業実施状況及び今後の展望

事業名：情報提供の高度化
駐車場情報の提供等

<実施主体>しなの鉄道活性化協議会
・2月(予定)：駅周辺駐車場情報のパンフレット作成



※イメージ写真

(2月)
・沿線企業への配布を行うとともに、観光施設などでの配布を行い、パーク&レールライドの推進を図る。

・定時運行等の鉄道の持つ優位性を周知
・渋滞の緩和
・エコロジーの推進

・自動車より環境にやさしく時間に正確であるといった鉄道の持つ優位性の再認識を図る必要がある。
・自家用車利用者の鉄道をはじめとした公共交通利用への切り替えを促進する。

車内中吊り広告掲出

<実施主体>しなの鉄道活性化協議会
・4月～：沿線イベント情報等を車内中吊り広告として順次掲出



(4月～3月)
→しなの鉄道沿線の公共に資するイベントを中心に宣伝し、地域の活性化とともに鉄道利用者の増加を図った。

・沿線地域の高校生がデザインしたポスターは話題性もあり、ある程度の反響はあった。

・継続して実施することは必要であるが、広告を見た人が実際に出掛けてみたい、体験してみたいと思うような内容の充実も必要。

しなの鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 **初年度**・2年度目）の概要

前年度二次評価結果等に係る事業の概要

二次評価における主な指摘事項

- ・今後、目標（目標値）の達成度合いに応じて、適宜目標の見直しを行うことを期待します。
- ・スケジュールが確定できなかった事業を具体的に確定されることを期待します。

二次評価に係る主な事業実施状況

- ・計画事業に着手して1年目ということもあり、達成度という面では不十分な面もあるが、事業を継続実施することで効果を高めていく。今後の達成度合いを見ながら、必要に応じ、適宜目標の見直しも行う。
- ・計画策定時においては、スケジュールを具体的に確定させられない事業もあったが、軽井沢駅での最終新幹線との接続など一部の事業は前倒しで実施している。次年度以降も事業の具体化を図っていく。

今年度事業のポイント

地域住民・利用者の意見を反映させた点

- ・軽井沢～小諸間の増便（実証運行）にあわせて行った利用者アンケートの意見も踏まえながら、軽井沢駅での下り最終新幹線との接続列車の運行や軽井沢～長野間の直通列車の増便、JR小海線との接続改善など、お客様の利便性向上を図った。
- ・3年前にも169系をしなの鉄道色から湘南色に塗色変更して運行したが、終了後には再度湘南色で運行して欲しいというお客様の声が圧倒的に多かったため、その要望を実現させたものである。

協議会として特に工夫して取り組んだ点

〔協議会〕

- ・実証運行の周知及び利用促進を図るため、運行地域の全世帯を対象に、独自の時刻表を作成・配布を行った。
- ・沿線施設等の協力を得て、観光施設の利用料割引等の特典を付したフリーきっぷを商品化し、利用者の増加を図った。

〔自治体〕

- ・自治体広報紙に協議会事業のPR記事を掲載し、事業の推進を図った。
- ・マイルールとしての企画列車の運行、地域イベントとの連携による利用促進を図った。

〔事業者〕

- ・具体的な事業の実施において、関係機関などとの連携を図り、事業の効果的な推進に留意した。

〔地域住民〕

- ・ボランティアによる駅清掃や植栽等、自分たちの鉄道を応援するといった取り組みが行われている。